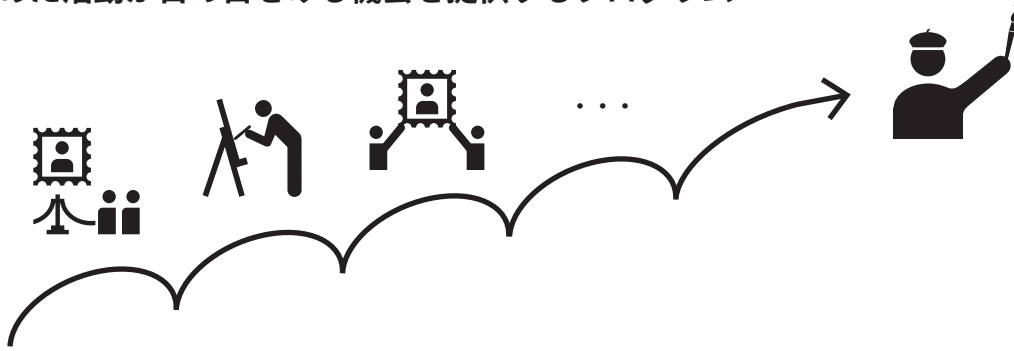


「ソロデビューへの道」

趣味で始めた活動が日の目をみる機会を提供するプログラム



事業内容

新しい施設では、初心者でも気軽に趣味として文化・芸術活動を始め、それらを広く披露する環境をつくります。例えば、最初は共用空間にてグループ展示に出展したり、フリーコンサートで来訪者の反応をみたりして腕を磨きます。その後、施設が主催する講習会やワークショッププログラムなど、いくつかの定められたメニューに参加し試験に合格すると、ギャラリーで個展を開く、ホールで演奏できるなど、少しずつレベルアップしていることを実感する環境での発表が可能となります。プロでなくても、いつかこの施設でソロデビューができるかもしれないというモチベーションを高めるプログラムです。

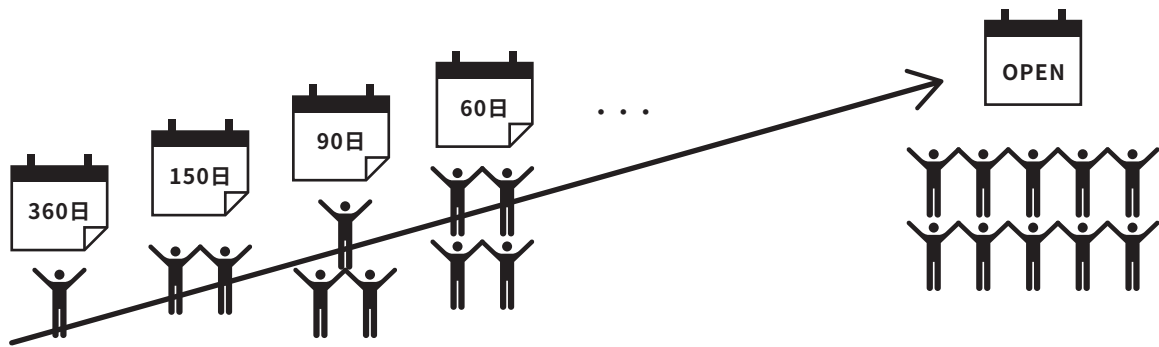
実施することで得られる効果・可能性

初心者でも気兼ねなく活動を発表できる場所を提供しながら、継続的な活動につなげ、文化・芸術活動の裾野が広がる

実現する上での課題

市民の活動がステップアップしていく講習会やワークショップの実施主体

「じわじわキャンペーン」 開館前からプロの公演で文化を育んでいくプレイベント



事業内容

これまで芸術文化活動に関心のなかった市民がそれらの活動に興味を持つためには、まずはプロの公演を体験し本物の感動を味わうことが重要です。そのため、新しい施設の開館前からプレイベントとしてプロの公演を市内各地で行っていくことで、市民が文化芸術活動に親しむ機会を創出することや、新しい施設への期待感を高めることにつながります。また、このプレ企画は、単に市民の文化芸術活動への素地を育んでいくのみではなく、一方の運営者にとっても、開館前にあらかじめ市民のニーズを把握し制作プロセスの練習になることを意図しています。

実施することで得られる効果・可能性

- 運営者の開館前からの事前実践経験
- 運営者の市内施設へのネットワーク構築

実現する上での課題

- 運営者・運営組織の早期決定
- 市内施設での公演へのプロ側の需要

「苫小牧アワード」 市外施設との差異化を図る独自のコンクール



事業内容

施設独自の基準や審査を設けたコンクールは、その施設が持つ固有の価値を創出し、他の施設との差異化を実現します。例えば、千代田区立内幸町ホールが主催事業として行われているシャンソン・コンクールは、単なる審査会のみではなく、コンクールを通じて参加者の普段の活動やひととなりを伝えることも目的としています。その結果、参加者が一つの舞台をつくりあげる当事者の一員になることができ、このコンクールをきっかけに歌手同士のつながりができたといいます。この取組を参考に、苫小牧独自の「苫小牧アワード」を定期的で開催していくことで、苫小牧の文化力を底上げしていくという、周辺施設の中での施設の役割を明確にすることを目指します。

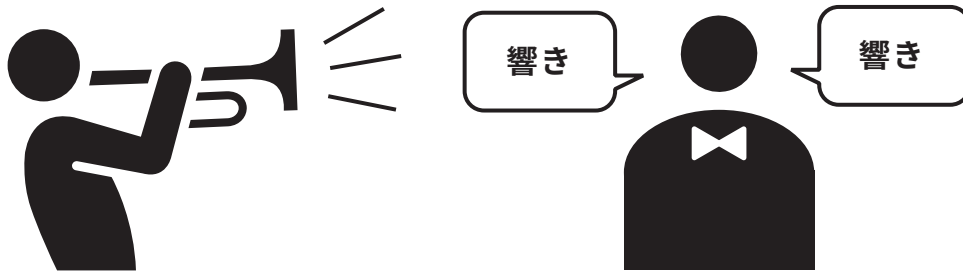
実施することで得られる効果・可能性

施設独自のイベントの創出
市内の文化芸術活動家の交流促進

実現する上での課題

審査員の選出など運営者の企画力
スポンサーの捻出

「響きのソムリエ体験プロジェクト」 音響と空間の関係を学ぶ企画



事業内容

「響きのソムリエ体験プロジェクト」では、ホールや練習室によって楽器や声の響き方の違いを体験し、音響と空間の関係を学んでいく企画です。一流のソムリエは、単に高価なワインを提供するだけではなく、顧客の予算や好みを考慮し、状況に合わせて顧客を喜ばせることができるといいます。このプロジェクトでは、単に音響の良し悪しを学ぶのではなく、響き方の違いを楽しみます。

実施することで得られる効果・可能性

積極的な諸室利用
諸室の稼働率向上

実現する上での課題

専門スタッフの配備

「とまこまい文化口座」

文化・芸術活動への参加経験が預金（記録）され利子（ポイント）がつく会員システム



事業内容

読んだ本のリストやラジオ体操の出席スタンプが貯まっていくように、自分の活動記録が目に見えることが励みとなり、さらに貯めたいくなるものです。とまこまい文化口座とは、施設を利用する市民が銀行口座を開設するように自身の文化口座をつくり、施設を訪れる度、通帳記入をするようにその活動や体験を記録することができます。一定の活動記録が貯まると、利子として施設内外で利用できるポイントが付与され、例えば一回公演を無料で鑑賞できたり、文化教室に出席できたりと、次の体験へつながります。また、この文化口座では、口座間で情報のやりとりもできます。例えば、演劇に何度も通っている市民には、演劇に関連する情報が届いたり、あるいは、音楽演奏活動をしている市民に、工作サークルとの連携を提案する案内が届いたり、活動・情報・人材バンクとしての機能も備えています。

実施することで得られる効果・可能性

市内全域の文化・コミュニティ施設との連携

実現する上での課題

情報管理の徹底

マッチングサービスを担う人材

「お茶の間フレンズ」

子ども食堂の実施を通じて、子どもたちに安心・成長の場を提供する取組



事業内容

子ども食堂は、経済的な理由から家庭で満足な食事をとれない子どもを主な対象とし、地域のボランティアや寄附をもとに子どもたちに安価で栄養バランスのとれた温かい食事を提供する取組です。新しい施設が子どもにとっての身近なサードプレイスとなるためには、文化芸術活動に特化した取組のみではなく、社会福祉や社会包摂といった観点からの取組が必要です。「お茶の間フレンズ」では、新しい施設で子ども食堂の取組を実施することで、子どもたちに良質な食事をとってもらうことはもちろん、文化芸術活動を通じて、安心し、健やかに成長することのできる環境を提供することを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

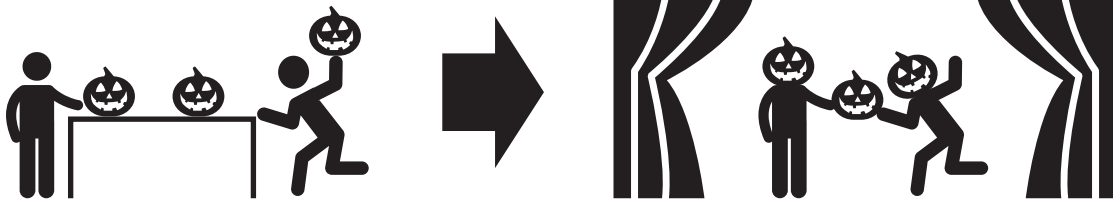
施設の来訪機会・リピーター創出
 文化芸術に対する興味・関心の喚起

実現する上での課題

子ども食堂の実践を希望する市民ボランティアや食材を提供する生産者の存在

「デコレーション大作戦」

子どもたちの工作が舞台装飾となる参加型のワークショップ



事業内容

音楽や芸術、文化に日常的に接する暮らしが市民に浸透していくためには、幼少期から施設に何度も通いたくなるような環境づくりが重要となります。誰かが発表・展示しているものを鑑賞するだけでなく、その舞台や会場を共につくりあげる一員として参加できる仕組みがあると、子どもたちは勿論、その家族や友人も一緒に楽しむことができます。

例えば子どもたちがハロウィンに向けてかぼちゃのランタンを制作する教室を開き、その制作物を展示すると同時に、それらが背景となって演劇や演奏会が催されるといった一連のワークショップを企画します。ものづくりと展示、鑑賞が一体となった企画はあらゆる組み合わせが展開可能で、何度も継続することで定着していくことが期待できます。

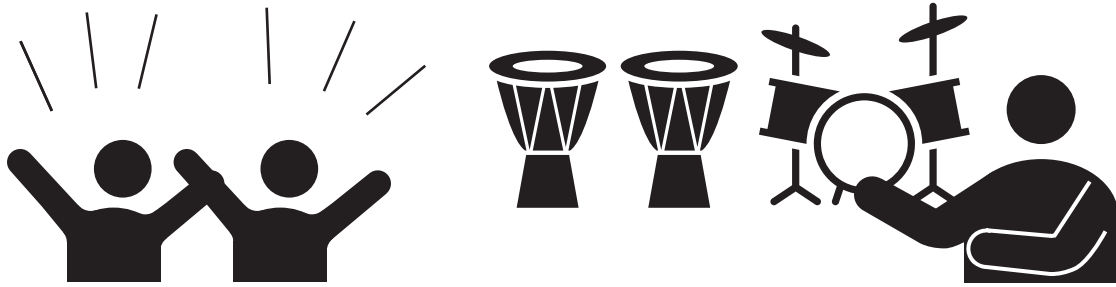
実施することで得られる効果・可能性

既存団体や活動の連携

実現する上での課題

ものづくりワークショップと展示・演奏・舞台などを結びつけるコーディネーターと企画発案者の存在
イベントの運営担当者の存在

「とまこまいキッズ基金」 未来のスター育成プログラム



事業内容

子どもたちが幼い頃から継続して芸術や文化に触れる機会をつくることは、将来活躍する人材を育成することにつながり、また市民全体の芸術・文化への関心を引きあげることもつながります。例えば、小中学生に対して吹奏楽でのホール利用を無料にしたり、自由に使うことのできる大型の楽器を用意したりすることで、日常的に良質の練習環境が確保されます。また、苫小牧出身で現在は第一線で活躍している先輩が定期的に集中講座などを開催し、子どもたちとその親たちの意識を高め、またその気運を次世代へと引き継いでいきます。とまこまいキッズ基金は、子どもたちへの投資は必ず未来に花開くと信じ、地域ぐるみでそれを応援する活動です。

実施することで得られる効果・可能性

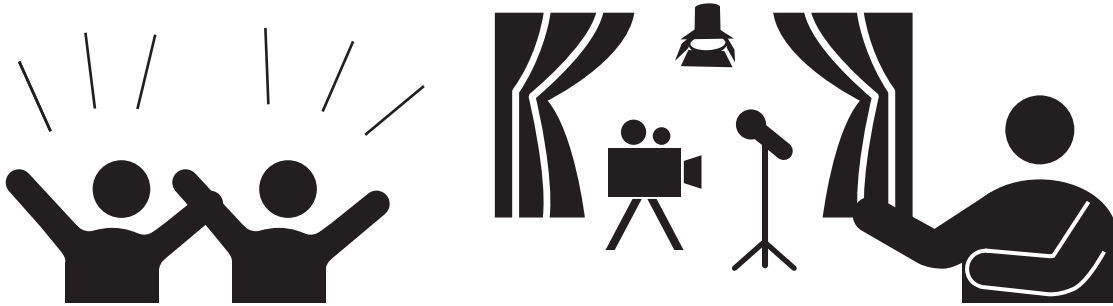
子どもたちの親や友人など普段足を運ばない市民が施設を訪れる

実現する上での課題

何をどこまでサポートするのか判断し実施する運営主体

「レベルアップ！みんなの部室」

既存活動の連携と発展を促す施設・設備の開放



事業内容

「レベルアップ！みんなの部室」は、市民が既存の活動を新しい施設に持ち寄ることで、より充実した活動へと発展させることを目指す企画です。例えば、小学校のお楽しみ会で施設のホールを使った楽器の演奏会を行ったり、部活動で中学・高等学校合同の練習会を開催したりと、既存の活動も専門諸室と施設スタッフの助言のもとでより発展的な展開が見込めるものとなります。新しい施設は、市内の教育活動や市民活動が内部で完結することなく、積極的に外部施設と連携することでより充実した活動へ高める拠点とします。

実施することで得られる効果・可能性

既存活動の充実・発展
施設利用機会の増加

実現する上での課題

専門諸室の内容とスペックの検討
専門スタッフの雇用

01

フ

活

レベルアップ！みんなの部室

集う

「週末マルシェ de ライブ」

苫小牧産の食材と市民の文化芸術活動が会うマルシェ



事業内容

施設の外部空間は、文化芸術活動に関心の薄い市民にとっても気軽に訪れることのできる、無目的利用を促すために重要な場所といえます。「週末マルシェ de ライブ」は、外部空間で行う文化芸術活動への気軽な参加を目的とした無料のイベントです。週末のお昼時に市内の農家や漁師が出店するマルシェとともに行うコンサート、パレリーナの週末ランチを食材とともに紹介するコーナーなど、文化芸術活動に関心のない市民が気軽に足を運び、市民が丸一日施設とその周辺で過ごしても飽きることのない新鮮で臨場感のある充実した内容のイベントを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動に関心の薄い市民の来訪
市内食材の販売促進

実現する上での課題

市内の農家・漁師とのネットワーク構築の必要性
周辺住民の理解・協力

「ゴーゴーナイトキャンペーン」 夜間の時間帯を利用可能にする試み



事業内容

期間限定で施設を夜通し開放することで、お祭りや合宿のような非日常的体験のもとでの市民同士の新たな交流や文化芸術活動への参画を促していく企画です。新しい施設では、楽器の演奏や演劇の練習など、普段は夜間制限されている活動も許容し、夜間独自のイベントを企画することで、市民の魅力的な余暇環境の過ごし方を提供していきます。

また、仕事を終えた後や学校の放課後といった日常的な余暇活動のための環境整備も、市民の人生を豊かにする大変貴重なものです。そのため、新しい施設では仕事帰りに施設を使えたり、学生がお金をかけずとも立ち寄れたりといった市民のアフターファイブの過ごし方についてもあわせて考え、施設の開館時間を市民のニーズに合わせたかたちにすることを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

市民同士の新たな交流や新しい文化芸術活動への参画
日中施設を利用することができない市民に対して利用機会の提供

実現する上での課題

周辺住民の理解と協力
夜間営業スタッフの存在
夜間利用をすることによる費用対効果

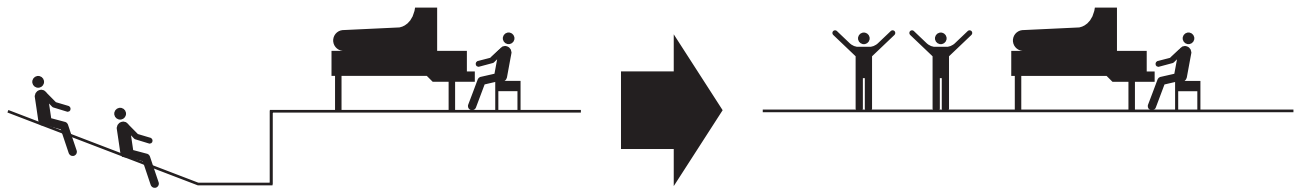
03

余
活

ゴーゴーナイトキャンペーン

集う

「ふらっとコンサート」 プロと市民が対等に芸術を楽しめるイベント



事業内容

文化芸術活動を愛好家向けの崇高なものだと捉える気運は未だ根強く、文化芸術活動の敷居の高さが新しい施設への気軽な来訪を阻害する懸念もあります。新しい施設は全ての市民が平等に利用できることを目指す公共施設の基本に立ち返り、誰もが気軽にふらっと訪れるようにすることが重要です。そこで、新しい施設では若手ミュージシャンが鑑賞者を巻き込んでいく参加型の演奏会や市民の楽器体験などの企画を積極的に取り入れていきます。文化芸術活動の作り手と受け手の境界をなくし、プロと市民が対等（フラット）な関係で文化芸術活動に親しむことのできるイベントは、施設そのものへの敷居の低さを演出することができます。

実施することで得られる効果・可能性

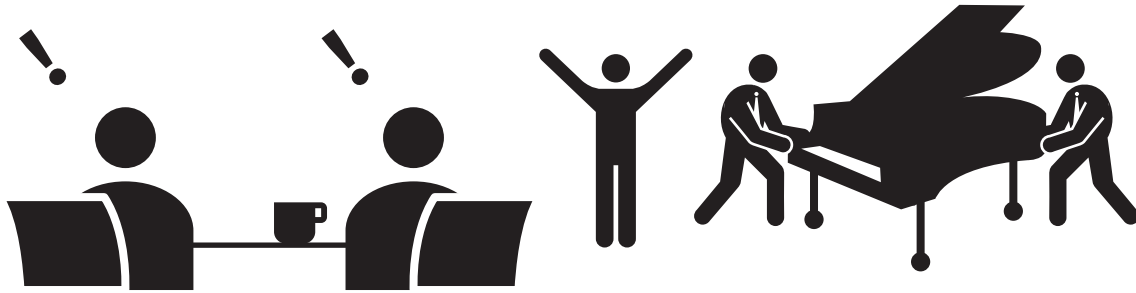
文化芸術活動への気軽な参加機会の提供

実現する上での課題

実施主体の存在

「どこでもアクション実行委員会」

施設全体で設備・備品を管理しイベントの活性化につなげるコーディネート組織



事業内容

「どこでもアクション実行委員会」は、施設の設備や備品を諸室単位ではなく施設全体で管理し、共用空間も含めた様々な場所で文化芸術活動やイベントが実施されるよう物品をコーディネートしていく組織です。例えば、スタジオにあるピアノや練習室にある鏡などの持運びを可能とし、施設内であればどこでも活動できるようにすることで、いつも施設のどこかで活動が展開されている状態を目指します。また、諸室ごとの管理ではなく、物品を施設で展開する活動に合わせて統括して管理することで、予約の混雑する諸室が生じることを防止し、合理的な物品管理を実現することができます。

実施することで得られる効果・可能性

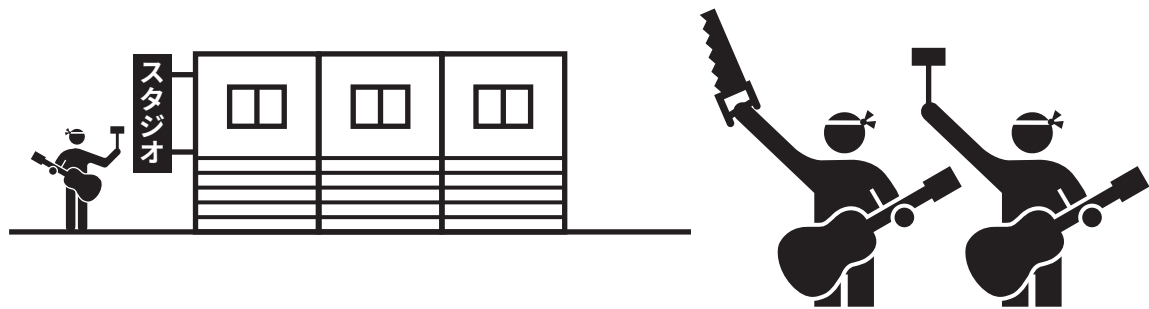
諸室単位での利用を越えた施設全体での活動の展開
活動内容に応じた合理的な物品管理

実現する上での課題

利用時における物品の運搬といった技術的ハードル
設計段階での綿密な計画にもとづく諸室の柔軟性確保の必要性

「まちなかスタジオ設計室」

空き家・空き店舗を練習室・スタジオへと転用する取組



事業内容

新しい施設は文化芸術活動の発展のみならず、市が現在抱えているまちづくりの課題にも貢献することが期待されます。「まちなかスタジオ設計室」は、空き家や空き店舗といった市内の空室を即席の練習室・スタジオに転用し、文化芸術活動の拠点として活用していくことを目指す取組です。新しい施設では、施設の複合化に伴い、諸室の予約がより一層混雑するなど、施設利用が飽和状態になることが想定されます。一方、現在市街地を中心に、有効活用が望まれる空き家や空き店舗が増加しています。そこで、「まちなかスタジオ設計室」は、新しい施設で予約がとれなかった際の代替案として空き家・空き店舗を活用していくことで、まち全体での文化芸術活動の活性化とまちづくりの課題解決が見込める一石二鳥のアイデアです。

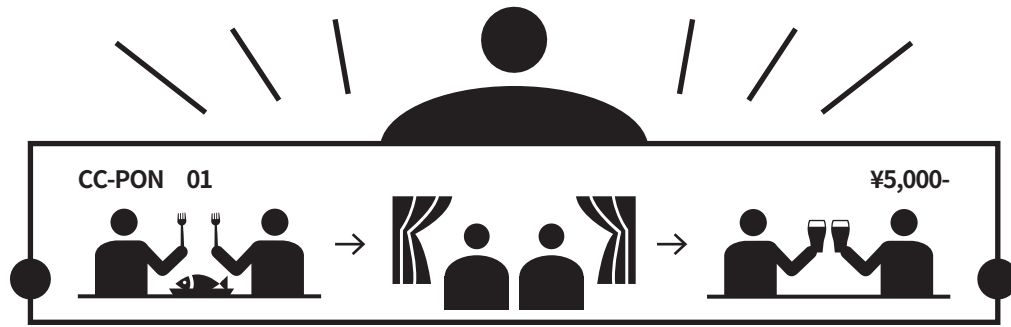
実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動を通じた中心市街地の活性化
施設利用の混雑緩和

実現する上での課題

専門スタッフの必要性
空き家・空き店舗を所有するオーナーの理解・協力

「CC-PON! (カルチャークーポン)」 商業活動と文化芸術活動をセットで考え企画する団体



事業内容

「CC-PON!(カルチャークーポン)」は、市内の商業活動と新しい施設での文化芸術活動を組み合わせた企画を実施する団体です。例えば、市内の飲食店の割引と公演を組み合わせ、公演だけではなくランチやディナーもセットにした休日一日をトータルでコーディネートしたプランを提案し、バンドの練習とその打上げをセットにした割引料金プランを設けます。この取組では、文化芸術活動だけではなく商業活動の活性化も目的とし、文化芸術活動を通じたまちづくりの可能性を積極的に追求していきます。

実施することで得られる効果・可能性

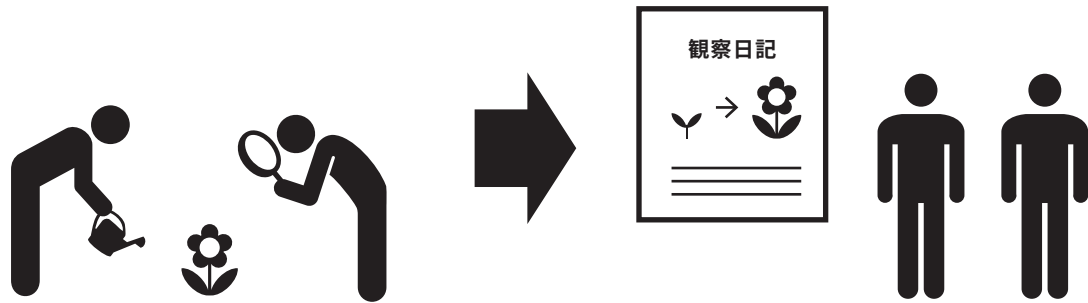
施設の来訪機会・リピーター創出
文化芸術に対する興味・関心の喚起

実現する上での課題

企画に対するニーズ把握の必要性
市内の店舗や各種機関との連携

「わたしの絵日記プロジェクト」

施設へ足を運び愛着を持てるしくみをつくる体験型学習



事業内容

公共施設の建物や植栽は業者によって管理されることが多いため、利用者があまり気に留めることはありません。しかし、例えばその植栽に市民ひとりひとりが関わると、気になって何度も世話をしに来ることでしょう。苗から育てることで、一年を通じて四季折々の変化を観察し、楽しむことができます。それらは絵日記として記録し、展示することもできます。専門知識を持つスタッフの協力を得て、ガーデニングの講習会を催したり、植物の種類を工夫することで、工作ワークショップの材料として使用したりすることも可能となります。「わたしの」育てている植物が新しい施設の展示の一部となることで、市民が親近感と愛着を持って足を運ぶ機会を創出します。

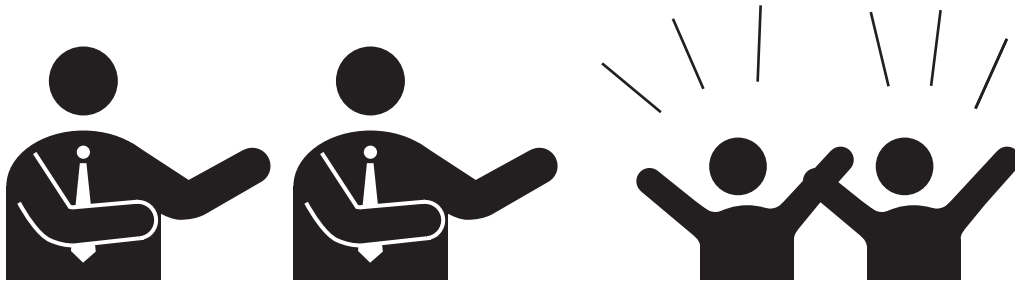
実施することで得られる効果・可能性

植物に限らず市民が手をかけることにより愛着を持つ仕組みに発展できる

実現する上での課題

技術・管理体制（市民に加えて専門スタッフを配置する必要性）

「子どものわくわく社会見学」 子どもの関心を育み施設のにぎわいを生むイベント



事業内容

多種多様な活動をしたり、利用者が気軽に利用できる施設にするためには、具体的な利用者像を想定することが必要です。例えば、子どもを対象としたスペースは、施設のにぎわいや活気を創出することができる重要な空間です。現在、市内には子どもを連れて自由に遊べる屋内スペースは少なく、その一方で、市内で開催されている子どもを対象とした職業体験イベントは、毎回抽選になるほどの人気企画となっています。そこで、新しい施設では子どもを対象とした職業体験イベントなどを実施することで、子どもの施設への関心を高め、子どもや子連れの家族が気軽に訪れることのできる施設を目指します。

実施することで得られる効果・可能性

利用者層の多様化

子どもが施設を利用することによるにぎわいや活気の創出

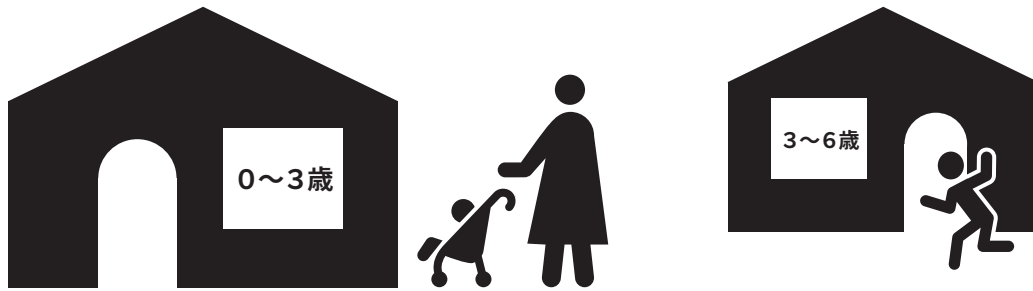
実現する上での課題

子どもを対象としたスペースのルールづくり

怪我や事故に対応できる管理の仕組みづくり

「コドモの止まり木」

子どもと親が気兼ねなく楽しめる体験型の展示・観賞プログラム



事業内容

大きな声を出したり、走り回ったりするなど、特に展示や観賞を伴う公共施設では迷惑になることを心配して出歩けない親子のために、仮設的な空間を作り、そこで展示、観賞ができるプログラムです。例えば、乳幼児は添い寝や授乳なども自由にできる環境で音楽を楽しんだり、小学生は家でゲームをする代わりに情報機器を使って親と一緒に展示作品を作ったり、年齢に応じて必要な空間を設けることで、異なる利用者による活動が共存することができます。

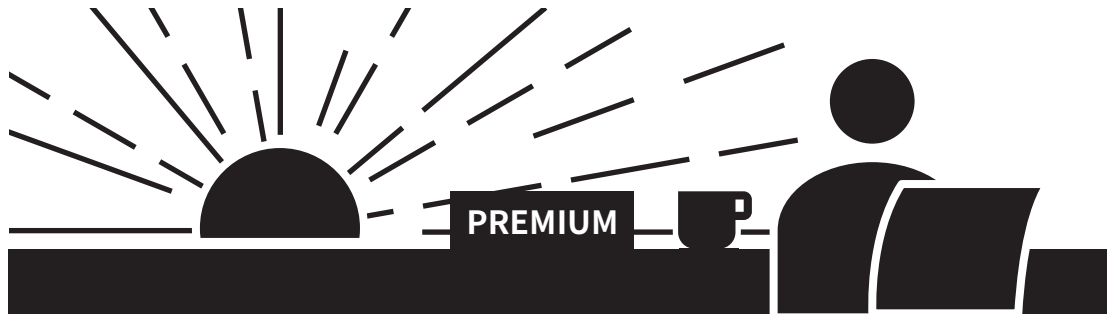
実施することで得られる効果・可能性

施設のにぎわいや活気の創出
文化芸術活動への参画機会の提供

実現する上での課題

仮設空間の設営場所・方法の検討
文化芸術活動との連携企画の検討

「トワイライトカフェ・プレミアムシート」 大人が息抜きできる夕暮れ限定の特別喫茶席



事業内容

いつも仕事や家事で忙しくしている市民にとって、ホッと一息ついて静かに本を読んだり、コーヒーを飲んだりする時間は貴重な非日常体験となります。日中や夜間にはぎわう施設でも、ほんのひと時、子どもたちが帰って夜の活動が始まる直前の夕暮れ時のみ、特別に用意した静かなシートとドリンクを提供します。毎日でなくとも気分を切り替えたい時、一人になりたい時などに訪れる時間限定の場所として、大人のより所となることを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動に関心の薄い市民の来訪
来訪者の特性に応じた施設利用

実現する上での課題

入替え時間の営業体制

⑪

居
窓

トワイライトカフェ・プレミアムシート

集う

「Living Bar」

いつでも迎え入れてくれるマスターのいる窓口



事業内容

さ細なことで話を聞いてくれる人がいると、特別な用事がなくともふらりとそこへ立ち寄りたくなるものです。「Living Bar」は行きつけのバーのように馴染みのマスターがいて、居間のように落ち着いてじっくり話のできる窓口機能です。専門のスタッフが常にいることで、かしこまらず、相談しやすい雰囲気づくりが可能となります。また、スタッフも窓口専門のスタッフとすることで、他の業務との兼業ではなく市民との対話に専念することができ、施設の管理・運営や企画を向上させることにつながります。

実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動に関心の薄い市民の来訪
スタッフの専門性をいかした運営

実現する上での課題

施設案内のみならずカウンセリングが可能な人材確保
特定の市民による占有を避ける工夫

「進め！カルチャーバスクラブ」 バス・文化芸術活動をセットで考え企画する団体



事業内容

「進め！カルチャーバスクラブ」は、旅行会社のバックツアーのように丸一日文化芸術を堪能できるツアーイベントや、市内の文化施設をバスで巡る乗車券と文化芸術のチケットをセットにしたプランを企画する団体です。

交通移動手段と文化芸術活動を組み合わせた企画を実施することで、交通手段の心配をすることなくお得に文化芸術を楽しむことができると共に、市内全域での文化芸術活動を楽しむことができます。

実施することで得られる効果・可能性

市内全域での文化芸術活動の展開
滞在地へのアクセシビリティの担保

実現する上での課題

文化芸術活動を対象としたツアーイベントのニーズの把握
バス会社などとの連携

13

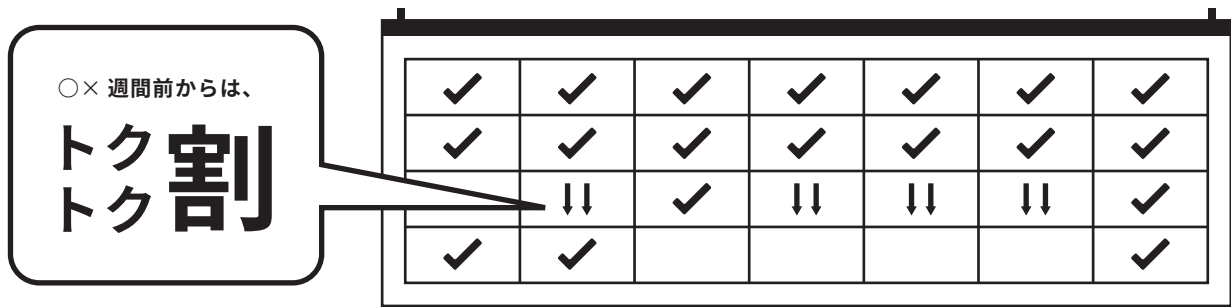
ま
窓

進め！カルチャーバスクラブ

集う

「トクトク予約」

利用料金を徐々に下げ利用者の間口を広げる予約サービス



事業内容

文化芸術活動に関心が薄い市民にとって、施設の利用料金やチケット料金など費用の高さは大きな問題です。そこで、可児市文化創造センターで行われている独自のチケット割引システムを参考に、新しい施設では諸室や公演の予約料金を、当日が近づくにつれ徐々に低価格にしていくサービスを検討します。このようなサービスは、利用者にとっては予定を合わせやすいメリットがあり、一方の運営者にとっても空いた席をもう一度売り直せるという、利用者・運営者双方が win-win の関係になることができるといいます。

実施することで得られる効果・可能性

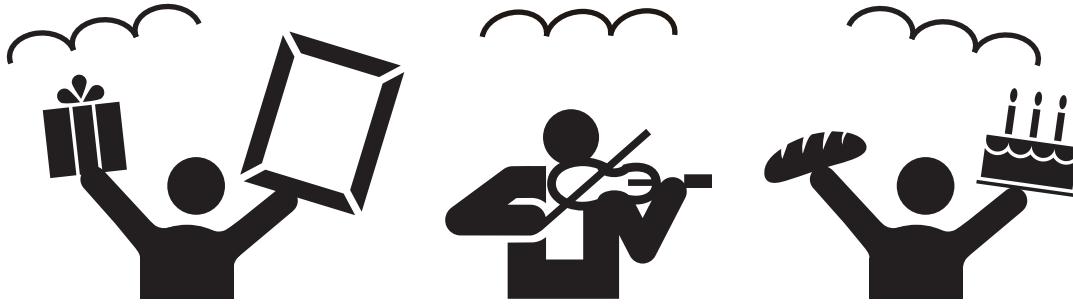
稼働率の向上

実現する上での課題

諸室利用・チケット購入などの予約システムの構築・ルールづくり

「おもてなしフェスタ」

異なる分野や場所で活動している市民が出会う年に一度のイベント



事業内容

市内には、各地のコミュニティセンターや自宅などで小規模ながら趣味や文化・芸術活動に携わる市民が大勢います。そのような市民が新しい施設の共用空間に集まり、普段はできない共同企画や特別な演出を試みるフェスティバルを開催します。例えば、クリスマスのイルミネーションを子どもたちが制作し飾り付け、その舞台ではゴスペルサークルやコーラスサークルがクリスマスソングを披露します。その際、いつも自宅で家庭料理を練習している料理教室の特別企画としておもてなし料理講習会を開き、それらを来場者にふるまいます。年に一度、この時にしかできない新たなコラボレーションが生まれ、参加者も来場者も楽しめる企画となります。

実施することで得られる効果・可能性

市内各所の地域活動のネットワークが生まれる
地域活動のモチベーションにつながる

実現する上での課題

イベントを企画する市民組織とそれをサポートし責任を持つ体制づくり

15

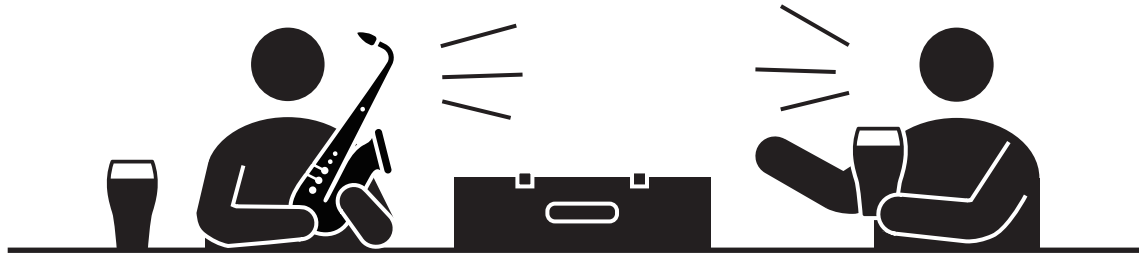
共
活

おもてなしフェスタ

集う

「寄合いバル^{注)} 実行委員会」

小さなグループ活動を誘発するイベント企画や運営支援



事業内容

市内には有志による音楽サークルや趣味の活動グループが多数あります。規模は決して大きくありませんが、隣の学校の同級生とチームメイトになったり、憧れの先輩とセッションができたりと、小さなグループの中にも、普段所属している学校や会社、年齢などの垣根を越え、地域に根差したつながりが生まれています。このような小さな市民活動の萌芽や持続的な活動を支えるのが「寄合いバル実行委員会」です。例えば、元吹奏楽部バルと題して、これまで眠っていた楽器を持ち寄り、当時の部活の話や簡単な練習で盛り上がる会を開催するなど、知合いが身近にいなくとも、小さなグループ活動に関わるきっかけを提供します。また、有志による活動を持続するアドバイスなども行います。

注) バル：スペインの日常的な社交の場であり、喫茶店・軽食堂・居酒屋を兼ねたような店のこと

実施することで得られる効果・可能性

市民が無理なく地域に関わる導入の機会づくり

実現する上での課題

イベントへの協力や広報の体制づくり
アドバイザーの確保

「カルチャーフェスティバル」 市の魅力をアピールする祭りと連動したイベント



事業内容

新しい施設は市民の芸術活動の場としてのみではなく、地域活性化の一端を担ったり苦小牧の魅力を発信したりと苦小牧市民が誇りを持つような地域に根付いた施設にしていくことが重要です。そこで、すでに行われている祭りや連動したイベントを行うことで、地元市民のための施設づくりや地元で根付いた活動を展開していきます。また、このイベントは市民のみを対象にするのではなく、お祭りを目的に訪れた観光客に対しても苦小牧の魅力を発信するよい機会です。祭りや連動したイベントの実施をとおして、新しい施設がよりよいまちづくりへ積極的に貢献することを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

一度も訪れたことのない市民への来訪のきっかけを提供
祭りを通じた芸術分野のジャンル間をまたいだ交流の促進

実現する上での課題

既存のお祭りへの介入余地の有無

17

圏

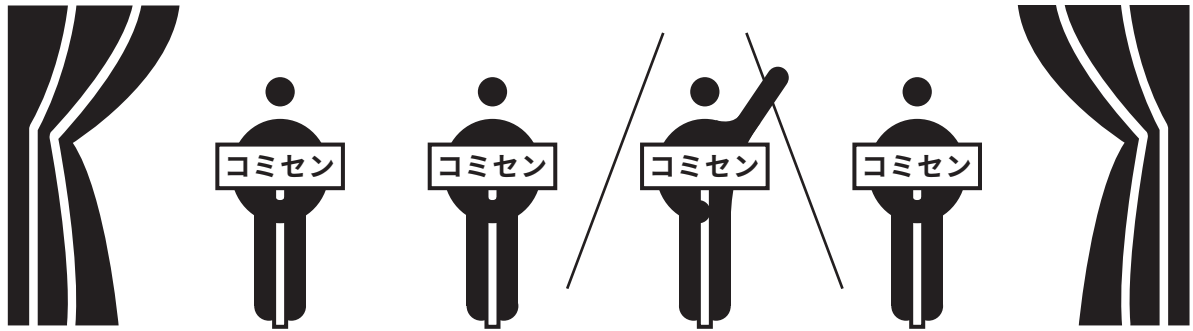
活

カルチャーフェスティバル

集う

「紅白コミセン合戦」

コミセンごとの各種サークル・団体が年に一度集結するイベント



事業内容

現在、市内にあるコミュニティセンターでは施設ごとに各種サークル・団体が活発に活動を行っています。「紅白コミセン合戦」では新しい施設で年に一度、市内のコミュニティセンターの各種サークル・団体が一同に集結し、コンクールを開催します。楽器演奏や舞踊といった実際の活動内容を紅白対抗形式で披露することはもちろん、施設独自の取組やユニークな活動の紹介なども評価する独自のコンクールとすることで、市内の文化芸術活動のより一層の活発化を目指します。

実施することで得られる効果・可能性

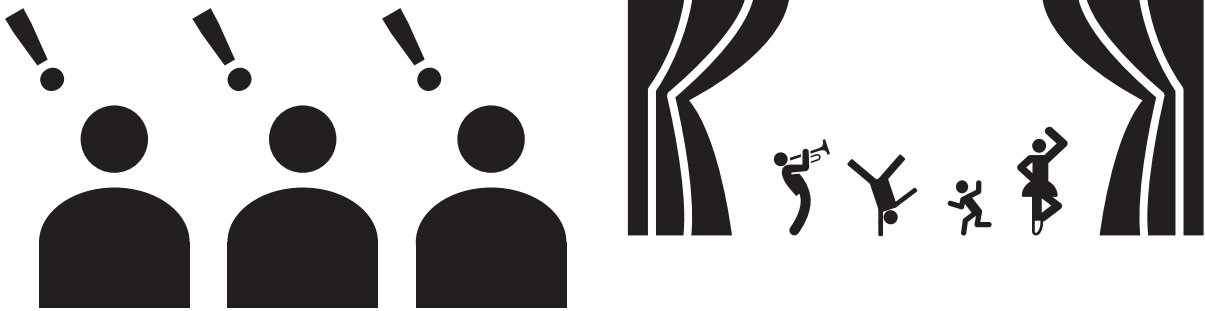
既存コミュニティセンターでの活動の活性化
新しい施設利用の機会創出

実現する上での課題

コミュニティセンターとの連携

「びっくり箱プロジェクト」

当日までプログラムが明かされることのない年に一度のビッグイベント



事業内容

施設独自のイベントは、その施設の個性を創出し他の施設との差異化を図ることができます。新しい施設は複合施設であり、様々なジャンルの文化芸術活動が一つの施設に集合していることが強みとなります。そこで、新しい施設では芸術祭やアートフェスティバルなどのイベントをアレンジし、演奏会の日程は告知をするが当日までプログラムが明かされることのない施設独自のイベントを行っていくことを検討します。イベントの仕組みは金沢市民芸術村の市民ディレクターの仕組みを参考に、イベントの企画から実施まで市民が積極的に関与していくことを目指します。

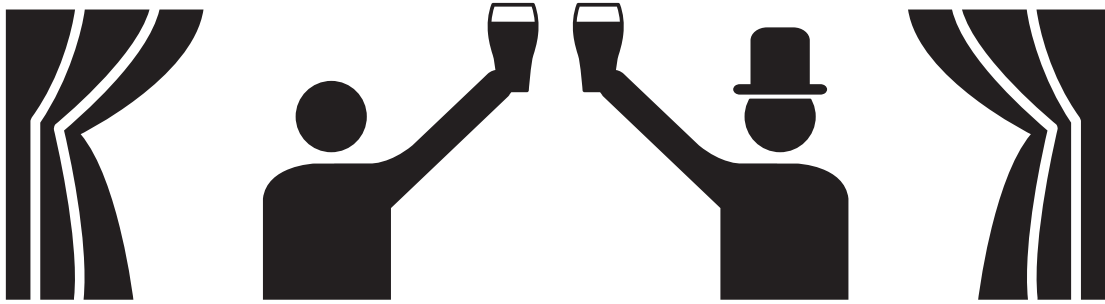
実施することで得られる効果・可能性

施設の目玉となるイベントの創出
市民の企画力・実行力の育成

実現する上での課題

市民ディレクターの人材確保

「シアター de アフターパーティー」 公演後の打上げを関係者と観客で共有しあうイベント



事業内容

「シアター de アフターパーティー」は、公演後に観客と打上げをし、公演達成の喜びを関係者と観客で共有しあうイベントです。打上げは一般には関係者のみで行われますが、このイベントでは関係者だけではなく、公演を鑑賞した市民も参加可能とすることで、関係者は公演の感想や反応を直接受け取ることができます。また、鑑賞した市民が公演の関係者と直に交流を持つことで、さらなる文化芸術の輪の広がりや展開が見込めます。

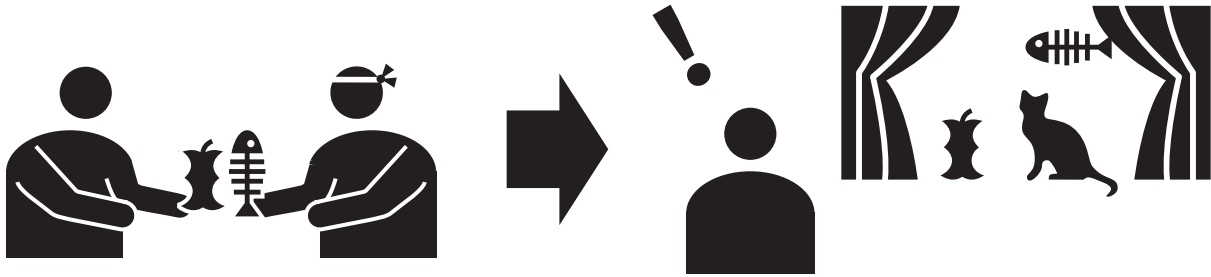
実施することで得られる効果・可能性

施設独自のイベント創出
文化芸術活動家の交流促進

実現する上での課題

柔軟な諸室利用のルールづくり

「もったいないプロジェクト」 創作活動に必要な物資を調達する活動



事業内容

「もったいないプロジェクト」は、文化芸術を通じて不用品に新しい価値を見出していく活動です。例えば、豊縁の切れ端を人形作者の市民が受け取り、業者にとっては不用品である物が人形の飾りとして再利用されたり、市民から集めた不用品でアーティストが都会の一角を表現した舞台美術を作成したりします。この活動は、不用になった物を施設に持っていきついでに文化芸術に触れる機会を創出することができると共に、創作活動に必要な物資を調達することで、結果的に文化芸術を媒介とした市民同士のコミュニケーションを促進することができる一石二鳥のアイデアです。

実施することで得られる効果・可能性

施設の来訪機会・リピーター創出
文化芸術に対する興味・関心の喚起

実現する上での課題

リサイクルプラザとの連携

21

つ

展

もったいないプロジェクト

集う

「北の歳時記～アウトドア展示推進企画室～」 屋外イベントと展示を結びつける企画



事業内容

屋外における賑わいは、普段文化施設に足を運ばない市民にとって、来訪の敷居を低くする一つの要素です。そこで、展示機能においても屋外を積極的に利用します。例えば、月の満欠けの観察会とそれにちなんだ作品を制作・展示するイベントや、ニューイヤーコンサートと雪を用いたキャンドルの飾付けといった、市民による制作や文化講座と連動させた展示を企画します。また、暖かい季節には、制作スタジオの一部を開放し、屋外スタジオとして日曜大工や子どもたちの遊び場作製など、屋内と屋外を効果的に活用し、それが展示につながる仕組みをつくります。このような展示を企画する組織には美術や技術スタッフがアドバイザーとして参加し、市民によるイベント企画などを技術面で支えます。いつ足を運んでも季節が感じられるといった、地域の魅力を発信する取組です。

実施することで得られる効果・可能性

施設の賑わいづくり
文化芸術活動への興味・関心の喚起

実現する上での課題

鑑賞や活動機能で展開される企画との連携
技術・美術スタッフの養成

「苫小牧の味を守る会」 地域に根差したソウルフードを楽しみながら伝える市民団体



事業内容

歴史上又は芸術上価値の高い演劇や音楽、工芸芸術など文化的所産のことを無形文化財といいますが、祖父母から伝えられる郷土料理や長年地元
に愛される定食屋の料理、地域に根差した名物 B 級グルメといったその地域特有のソウルフードも継承すべき無形文化の一つといえます。

「苫小牧の味を守る会」は、苫小牧に伝わる各種のソウルフードを市民みんなで調理し、楽しみながら伝えていく市民団体です。活動は料理の取材
から始まり、料理教室型の小さなイベントから大きなフェスティバルまで、大小様々な規模で展開していきます。

実施することで得られる効果・可能性

生活に密着した文化芸術活動の展開

文化芸術活動への興味・関心の喚起

実現する上での課題

持続的な活動・イベント開催を企画する実施者の存在

01

ま

活

苫小牧の味を守る会

知る

「〇×デー」 各機能の個性を際立たせる特集イベント



毎月第●×曜日



毎月第▲○曜日



毎月第△■曜日



毎月第▼□曜日

事業内容

新しい施設では、複合化により様々なジャンルの催しが可能となり、バンド・オーケストラ・バレエ・ヒップホップダンスなど多数のジャンルが一つの施設を利用することを活かしたイベントを行っていくことが必要です。一方で、複合化に伴い、各諸室の予約が重複し、利用団体によっては施設が使いづらくなってしまう懸念もあります。

そこで、映画館にある〇×デーのようなテーマを持たせた催しや割引料金サービスを参考に、複合施設だからこそ可能な多様なイベントの創出を検討していきます。また、テーマとなったジャンルの利用団体に対しては諸室予約の優先等を行い、全てのジャンルの団体が偏りなく施設を利用することが可能になります。

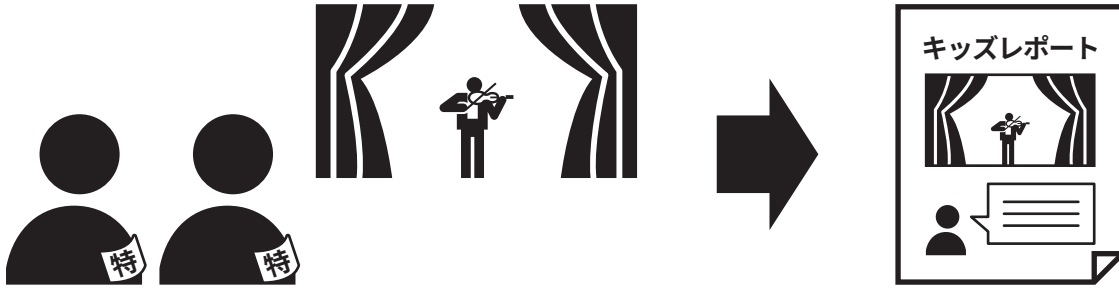
実施することで得られる効果・可能性

- 複合施設独自の個性創出
- 芸術分野のジャンル間の交流促進

実現する上での課題

- 優先利用システムの構築・ルールづくり
- イベント実施者の存在

「教えて！子ども特派員」 人と人をつなぐ顔の見える情報案内



事業内容

新たな施設では、常に新しい情報を発信することを目指しますが、単にイベント情報の案内をするだけでなく、人と人をつなげる情報提供の仕組みを提案します。例えば、子どもたちが舞台の制作・稽古の過程、演者の人柄や役作りに迫るインタビュー、観賞した感想などを一連の記事にすることで、記者となった子どもたちや取材を受ける演者、また情報を受け取る市民にとって、その舞台がより身近になり、関心が高まるのが期待できます。

実施することで得られる効果・可能性

教育活動との連携

文化芸術活動と市民の距離が近づく 機会の創出

実現する上での課題

子どもたちの取材・編集作業を支えるスタッフの必要性

03

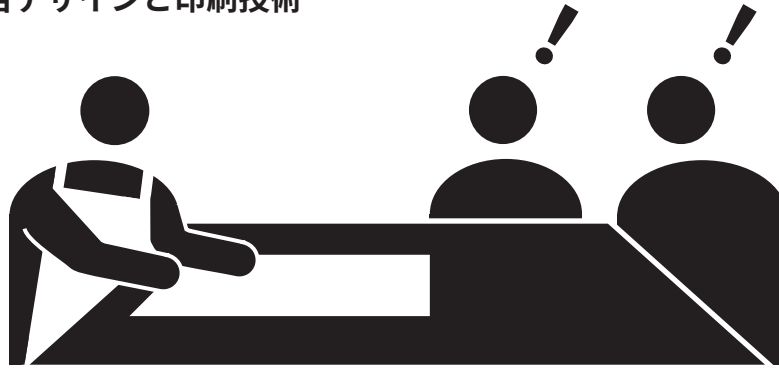
情

展

教えて！子ども特派員

知る

「誰でも印刷工房」 プロが教える広告デザインと印刷技術



事業内容

広告作成をしたくても、その方法が分からない市民のために、印刷業者と連携して広告デザインや印刷の技術を学ぶプログラムを提供します。参加者が広告を作る過程で、一定期間施設へ通うことになり、情報交換が生まれます。また、作成した広告はメインの掲示板に掲示できるなど、市民自らが情報発信にける意欲を高める仕組みを取り入れます。

実施することで得られる効果・可能性

施設の来訪機会・リピーター創出
市民の情報発信力の向上

実現する上での課題

技術提供が可能な企業や個人との連携
資金的サポート体制

「広報とまこまい増刊号 文化編集部」

広報とまこまいと連携した市民編集部員による文化情報誌制作



事業内容

広報とまこまいは、市民の貴重な情報源として親しまれていますが、記事の締切日が早いことや、誌面量の制限により詳細な内容を掲載することが難しいこともあります。新たな施設では、この広報の増刊号として文化・芸術活動、地域活動に特化した内容を市民が編集します。例えば、広報でイベント予告がされているサークルへの取材や、公演が予定されているホールでの練習風景の紹介など、市民の関心を引きつける内容を掲載します。また、SNS等のメディア発信を連動させ、最新情報の提供に努めます。全戸に配布される広報の情報発信の強みと、通常の情報誌とは異なる角度で市民自らが取材する増刊号の面白さを融合させた編集部です。

実施することで得られる効果・可能性

日常的な情報誌と連動した文化芸術活動への関心の喚起
広報の内容をより詳細に補足できる相乗効果

実現する上での課題

広報とまこまいとの連携
編集スタッフの勤務体制の検討

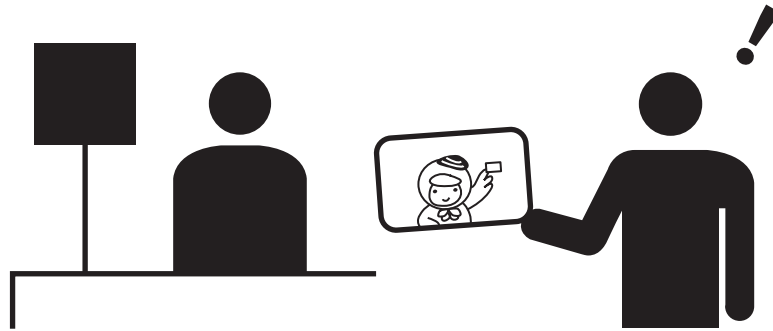
05

ま
窓

知る
広報とまこまい増刊号

文化編集部

「とまチョップ・アート&カルチャーポイント」 施設への来訪を促すポイントサービス



事業内容

無目的利用を促すために重要なのは、文化芸術活動に関心が薄くともまずは施設に来てもらうためのきっかけづくりです。「とまチョップ・アート&カルチャーポイント」は、現在市で実施しているとまチョップポイントと連携したサービスです。とまチョップポイントは、市が主催する事業・イベントへの参加や公共施設の利用でポイントが貯まるサービスです。新たな施設でも、コンサートや公演を鑑賞した際や、各種練習やイベント参加時にポイントが貯まることはもちろん、例えば施設に来訪したことを SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス) に告知するとポイントが貯まるなど、施設来訪のきっかけとなるサービスを提供していくことを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動に関心の薄い市民の来訪

実現する上での課題

とまチョップポイント事務局との連携
ポイント獲得の条件設定

「特別公開！裏方の世界」

本物の技術を体験し老若男女の好奇心をくすぐるバックヤードツアー



事業内容

普段は見ることのできない舞台裏を見学したり、音響や大道具など舞台の裏方が行っている仕事を体験したりするバックヤードツアーは、単なるイベントとしてだけでなく、舞台そのものへの関心も生むリピーター創出の効果があります。

バックヤードツアーを体験すると、舞台装置が実際に使われている様子を公演の場で確認したいと思うようになったり、鑑賞だけではない公演を支えるサポーターとしての楽しみややりがいが増えたりするといいます。

子どもに限らず、大人も楽しめる体験型ツアーは人気企画としての継続が期待できます。

実施することで得られる効果・可能性

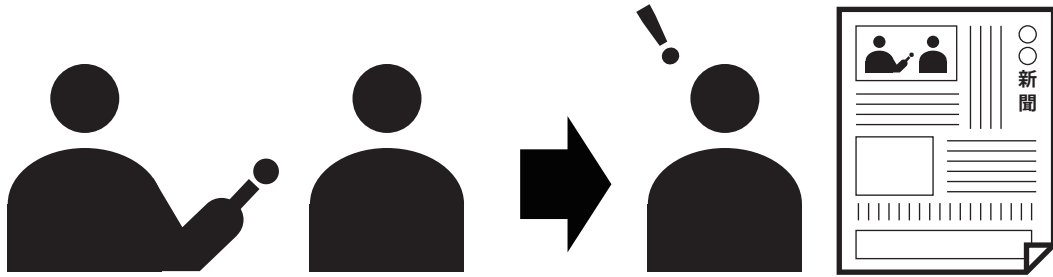
既存複合検討施設で既に実施しているため、体制さえ整えることで実現の可能性が高い

実現する上での課題

イベント実施者の存在

「とつげき新聞部」

まちの魅力を市民自ら調べ、発信するイベント



事業内容

このイベントでは、地域で関心事となっている題材について、実際にまちにくり出し、関係者や有識者に取材をし、資料を収集しながら壁新聞を作成します。「自分のまち」という全ての市民にとって身近なテーマであるので、イベントには小学生から退職後のシニアチームまで世代を超えて参加することができます。作成した壁新聞は、市民による手づくりのかわら版として施設に展示されます。その後、その内容を再構成して物語を作成し、演劇を上演するなど、市民の関心事をあらゆる文化芸術活動へと結びつけ、市民自らが施設をいきいきと活用する利用者になってもらうことを目標にしています。

実施することで得られる効果・可能性

情報発信

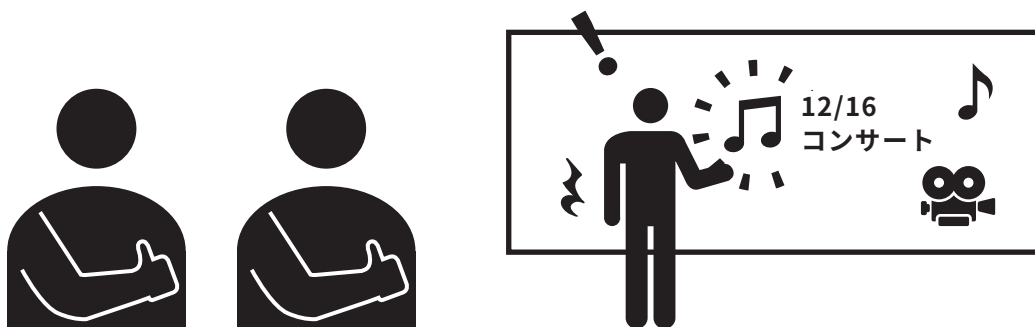
SNS などへの展開

実現する上での課題

市民の関心事を文化活動へ結びつけるディレクターの存在

「サイン考案部」

ついで利用を促進するサイン・サイネージを市民自らがプロデュースする組織



事業内容

新たな施設へのついで利用を促すために重要なのは、用事の合間に文化芸術に対する関心を喚起し、実際に市民を活動へと誘っていくための仕掛けや工夫です。「サイン考案部」は、プロやアーティストと共に市民の手で自らサインやサイネージ（電子看板）を作成し、ついで利用が生まれやすい環境づくりを行う組織です。ふと目に止まるサインやサイネージがあることで、普段意識していなかった活動のきっかけになることを目指すと共に、サインやサイネージ自体も一つの表現活動であり、それ自体が文化芸術活動となるような質の高い情報発信を担う組織となります。

実施することで得られる効果・可能性

ついで利用の促進
市民による表現活動の活性化

実現する上での課題

運営を担う市民組織とそれをサポートする体制づくり
専門スタッフの雇用

「図書室 (ライブラリー) de ライブ」 演劇やライブ活動の場となる体験型図書スペース



事業内容

複合施設に図書室機能があることで公演や展覧会といった特別な目的がなくとも施設へ訪れる機会が創出できます。施設独自の図書コーナーを設ける場合、蔵書はホール・美術館・展示などの機能に合わせ、文化・芸術に関するものを中心としたラインナップすることや、さらにイベントと関連した蔵書選定を行うことで機能間の相乗効果も発揮できます。例えば、公演があるときは関連するアーティストの特集コーナーを設け、子どもたちには読み聞かせや即興演劇の企画をするといった活動を行うことで、なんとなく雑誌を読み立ち寄った市民が公演のことを知り、それをきっかけに公演を鑑賞するといったことも起きるでしょう。さらに、図書コーナーそのものがライブ会場となり、蔵書と関連した演劇や生演奏が気軽に楽しめるなど、図書を媒体とした独自の企画を生み出す場となります。

実施することで得られる効果・可能性

機能間の連携拠点として位置付けられる

実現する上での課題

独自の選書や管理をする運営主体の存在

「腕利きサポート部隊」

アーティストとの共同作業で表現の幅を広げる市民ボランティア集団



事業内容

市民ボランティア集団「腕利きサポート部隊」は、市民がやってみようと思ったことをプロ・アーティストの指揮のもと、実現する市民参加型アートプロジェクトです。市民はボランティアとして「腕利きサポート部隊」に登録することで参加が可能となります。例えば、新たな施設のロゴデザインやイメージカラーを担当したデザイナーが、それらを使った市民活動のチラシやポスター・Web制作の指導をすることで、市民は効果的な広報を安価で実現することができます。また、他には市民による椅子の設置や屋外植栽の提案を家具職人やランドスケープデザイナーと一緒に作りあげるなど、多種多様な活動が考えられます。それぞれの得意技を活かし、互いの活動を高め合うことのできる専門家と市民の合同プロジェクトとなります。

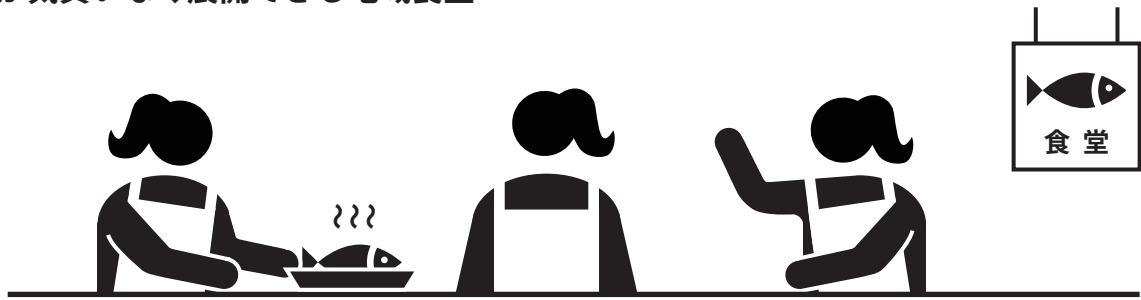
実施することで得られる効果・可能性

市内出身の若いアーティストが活躍できる場となる
 趣味を続けていた市民が退職後に力を発揮できる

実現する上での課題

技術・管理体制
 専門スタッフと市民の関係をつくる体制

「手作り食堂 in 市民プラザ」 市民が気負いなく展開できる地域食堂



事業内容

市民が主体的に参画することのできる場は、ホールや練習室だけに限らず、施設の中にあるレストランやカフェでも可能です。「手作り食堂 in 市民プラザ」は、コミュニティ・レストランの仕組みを参考に、日替わりで食堂を運営していく取組です。日替わりで作りが交代していく仕組みを採ることで、市民が気負いなく活動を展開できるようにし、例えば地域のお母さんたちが食堂のスタッフとなったり、小学生が放課後にボランティアスタッフとして配膳を手伝ったりします。この取組では、レストランやカフェが地域に根付き、食を通じた市民間のコミュニケーションの創出を目指します。

実施することで得られる効果・可能性

市民の社会参画の場を創出
食を通じた市民間コミュニケーションの展開

実現する上での課題

コミュニティ・レストランの実践を希望する市民の存在

「チャレンジショップ in 市民プラザ」 開業を試みる市民が期間限定で出店する実験店舗ブース



事業内容

諸室にフレキシビリティを付加する際に重要なのは、日々提供されるサービスや諸室利用に改良を加えたり、内容を少しずつ変化させたりすることで、来訪者に対して常に新鮮な発見を提供することです。「チャレンジショップ in 市民プラザ」は、開業またはアンテナショップへの出店を希望する市民を対象に、店舗ブースを格安の条件で一定期間貸し出す実験店舗ブースです。先月はパン屋、今月はカレー屋といった具合に、店舗の内容が毎月変わっていくことで、期間限定だからこそ新たにチャレンジできる市民の意欲と、何度も訪れたい来訪者の需要と供給が合致する試みです。

実施することで得られる効果・可能性

施設の来訪機会・リピーター創出

実現する上での課題

開業希望者の存在

03

7
活

チャレンジショップ in 市民プラザ

関わる

「共にアクション実行委員会」 施設と市民と一緒に要望・意見を実現していく取組



事業内容

施設の運営にとって、利用者である市民の要望や意見を真摯に聞き入れる姿勢は非常に重要です。その一方で市民も、要望や意見を単に述べるだけでなく、要望や意見を施設運営者と共に実現させていく姿勢が重要になります。「共にアクション実行委員会」は、施設についての要望・意見を募る市民参加型の会議を開催し、そこで出された要望・意見について、それを提示した市民と共に実現させていく取組です。施設運営者と市民が顔を合わせながら要望・意見を実現させるための方法や解決策を考え抜くことで、市民主体の施設づくりを目指します。

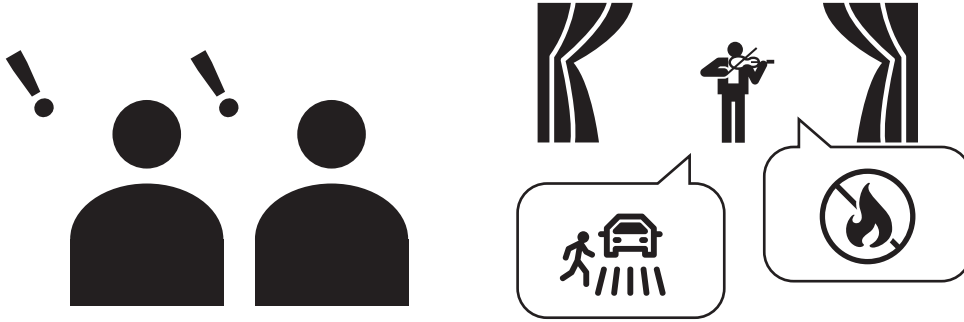
実施することで得られる効果・可能性

市民主体の施設づくりの実現

実現する上での課題

何をどこまで実現させていくかのルール・仕組みづくり
市民の要望・意見を柔軟に受け入れることのできる施設運営者

「NO MORE 交通事故キャンペーン」 交通安全などの啓発活動を文化芸術団体が担う試み



事業内容

交通安全や火災予防などの啓発活動は、日常的に接することでの効果的な周知が求められます。そこで、施設を利用する文化芸術団体にコンサートや公演の前に啓発活動をしてもらうことで、その普及を促進します。啓発活動を行った団体には、利用割引や施設で使えるクーポンが得られるなどの特典を設けます。啓発活動はこれまで交通安全センターや警察などの公的機関、あるいは町内会や意識の高い市民の有志が担ってきました。しかし、このキャンペーンでは、意識の高低とは関係のない市民が啓発活動を担うことで当事者意識が生まれます。結果的に、啓発活動を行う市民、それを目にする市民の双方を啓発することができる一石二鳥の事業になります。

実施することで得られる効果・可能性

既存の啓発活動の普及・発展
施設の利用促進

実現する上での課題

賛同者・スポンサーの確保

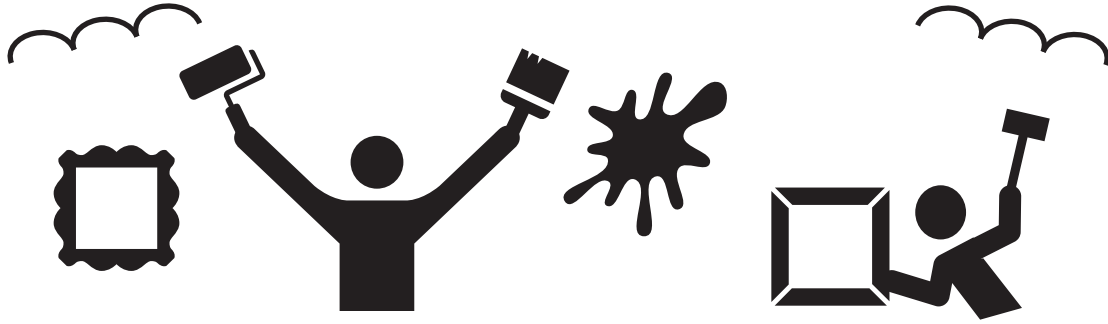
05

定鑑

NO MORE 交通事故キャンペーン

関わる

「ワクワク展示室」 市民がつくりつかいこなす展示スペース



事業内容

美術館や博物館のように額縁やケースに入った作品の展示方法だけではなく、市民の作品を展示する空間は市民自らが考え、つくりあげることができます。展示空間を手作り形式にすることで、例えば写真を釘で打ちつけて展示したり、子どもたちが絵を画びょうで貼付けたりするなど、気軽に自由な表現が可能となります。また、他の活動やイベントなどと連動させ、人が集まる場所に展示空間を設置できるなど、展示場所自体の自由度も高めることで、展示する側も、鑑賞する側も、作品を身近に感じ、多くの市民の目に触れる機会をつくることができます。

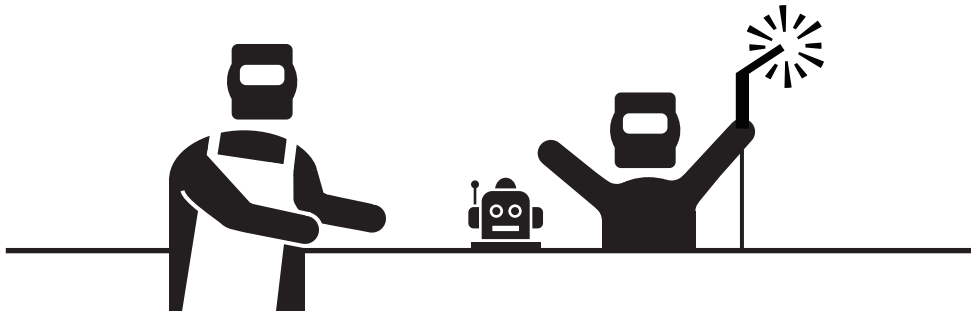
実施することで得られる効果・可能性

多機能との連携企画

実現する上での課題

作品の管理方法

「DIY 応援部」 市民の主体的な創造活動をサポートする団体



事業内容

市民が主体的に創作活動を展開できるようにするためには、充実した専門機器とそれらの使用方法を説明する専門スタッフが必要です。「DIY 応援部」は、最新の工作機器の使い方をスタッフが事前にレクチャーし、市民の主体的な創作活動をサポートする組織です。また、「DIY 応援部」も積極的にものづくりイベントなどを開催することで、市民によるより高度なものづくりへの実践の機会を提供していきます。この取組では、創作活動を通じた世代間交流や市民同士のコミュニケーションの機会を創出することを目指します。

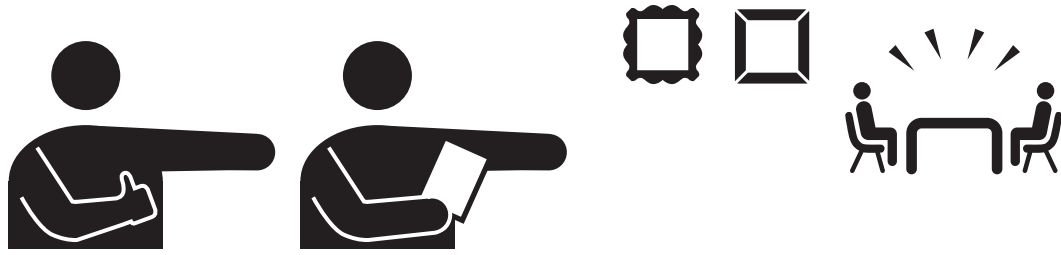
実施することで得られる効果・可能性

より高度な創作活動の実践機会を創出
創作活動を通じた世代間交流や市民同士のコミュニケーション機会の創出

実現する上での課題

専門機器の設備投資
専門スタッフの雇用

「いきいきディレクターズ」 共用空間のイベント・雰囲気づくりを担う市民組織



事業内容

共用空間は、様々な市民が訪れ、自由に行き来、滞在できるスペースであることが求められますが、一方で使い方のルールや禁止事項が増えてしまうこともあります。施設全体、特に共用空間の雰囲気づくりや施設が主導するイベントの企画を実施することで、一般的には思いつかなかったような共用空間の使い方を提案することもできます。例えば市民でつくる団体が共用空間のディレクターとして企画の発案や運営を担い、自由な発想で市民がいきいきと過ごすことのできる雰囲気づくりを進めます。行政は、その企画を後押しする役割として禁止ではなくどのようにすれば実施できるのか解説策を考え抜き、企画の成功へつなげます。

実施することで得られる効果・可能性

施設企画のイベントや提案から市民発案が活発になる流れをつくることのできる

実現する上での課題

市民組織の存在
行政や他団体との協働

「魅せる事務室」

人と人の距離が近づくシゴトバ



事業内容

新たな施設では、スタッフと市民が互いに声をかけ、安心して過ごせるような関係を築くことを目指します。「魅せる事務室」は、閉鎖的になりがちな事務室をあえて見せることで、市民からの敷居をなくし、施設の仕事への親近感と信頼を得ることにつながります。またスタッフ自身も常に働く場所への気配りと施設全体への関心を持つことができます。スタッフ間でも部署や表方・裏方の垣根なく自然に協働できるきっかけとなることが期待できます。

実施することで得られる効果・可能性

気軽な施設への来訪
部署・機能間連携

実現する上での課題

セキュリティ、プライバシーの確保

09

居

窓

魅せる事務室

関わる

「芝生ファンクラブ」

屋外のオープンスペースづくりやイベントを企画する組織



事業内容

芝生の広場のようなオープンスペースは、文化芸術活動に関心の薄い市民にとっても気軽に訪れることのできる場所です。「芝生ファンクラブ」は、屋外スペースを自主的に管理し、そこでのイベントを企画する市民団体です。施設の内部空間ではなく外部空間の管理や運営を市民が担うことで、文化芸術活動に限らない自由な発想をすることが可能となり、市民にとって親しみやすい憩いの場づくりを実践することができます。

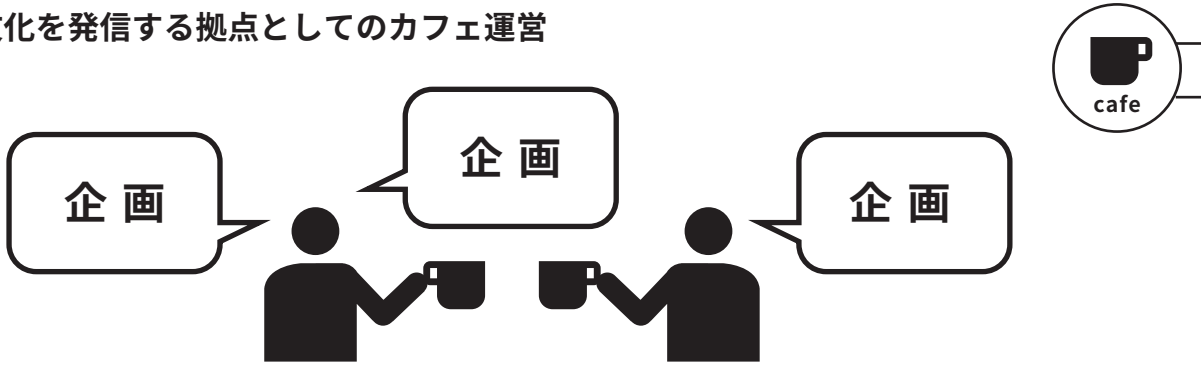
実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動に関心の薄い市民の気軽な施設への来訪
文化芸術に限らない活動の展開

実現する上での課題

管理・運営を担う市民組織とそれをサポートする体制づくり

「まちカフェ企画室」 文化を発信する拠点としてのカフェ運営



事業内容

ひとりで本を読みたいとき、公演を鑑賞した後にその感想をワイワイ話したいとき、子どもを遊ばせながらちょっと休憩したいとき、放課後に友達と勉強したいとき・・・新しい施設では、そんなふとしたときに立ち寄ることのできるカフェスペースを用意します。また、カフェ運営者が海外の文化を広めるための本や料理を紹介するイベントを企画したり、施設のオープンを記念した特別メニューを提供したりと、単なる施設内にある喫茶店・飲食店に留まらない独自の活動を実践する積極的な運営方針が求められます。

実施することで得られる効果・可能性

カフェが施設の機能横断的なイベント企画の拠点となる

実現する上での課題

積極的なカフェ運営受託者の存在

⑪

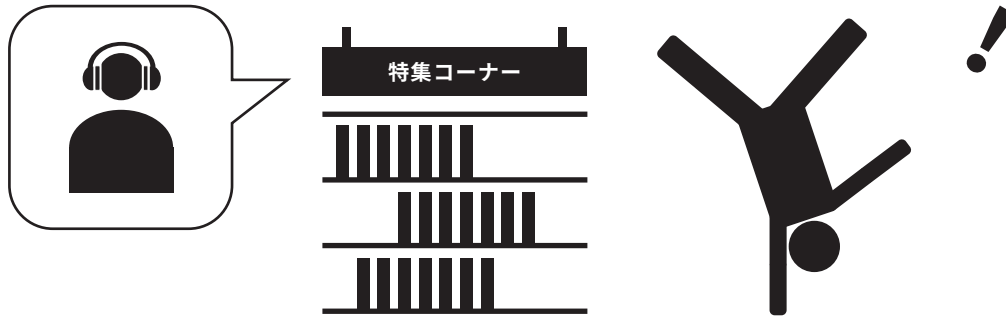
目

活

まちカフェ企画室

関わる

「週刊おすすめリレー」 市民による市民のための情報発信・交換サービス



事業内容

施設を訪れてはじめてできる体験や、その場所に行ったからこそその気付きがあると、またそこへ訪れたいくなるものです。新しい施設では、市民がふらっと施設へ訪れたときにいつでも新しい情報を得ることができ、新鮮な発見に満ちた場所を目指すことが重要です。「週刊おすすめリレー」は、市民が他の市民に届けたい情報を週替わりで発信していく独自の情報発信サービスです。例えば、ヒップホップが好きなDJがダンスに最適な音楽を紹介するコーナーを設けたり、読書が好きな市民がクラシック音楽に関連する本を紹介したりします。市民から市民へとその人独自の視点にもとづいた情報を伝えていくことで、施設への来訪を価値あるものにしていきます。

実施することで得られる効果・可能性

施設の来訪機会の提供・リピーター創出
機能間での連携・相乗効果

実現する上での課題

情報発信を行う市民の存在

「ボランティアコーディネーター協会」 市民の能力や適正に合わせたボランティア活動を引き合わせる組織



事業内容

限られた人材・予算で実施される施設運営にとって、市民ボランティアの存在は貴重であり、ボランティア活動への気軽な参加と参加意欲を高める仕組みや工夫が重要になります。「ボランティアコーディネーター協会」は、人材を募集する施設運営者とボランティアを希望する市民双方が win-win の関係を構築できるように、市民の能力や適性に合わせたボランティア活動を引き合わせる組織です。組織がボランティア活動の仲介をすることで、施設運営者にとっては自身の業務に専念できるためサービスの向上につながり、一方の市民にとっては自身の能力向上や文化芸術活動へのより一層の活躍ができます。

実施することで得られる効果・可能性

施設サービスの向上
市民ボランティアの意欲・向上

実現する上での課題

施設の希望とボランティア志願者を上手く引合わせることのできるスタッフの雇用

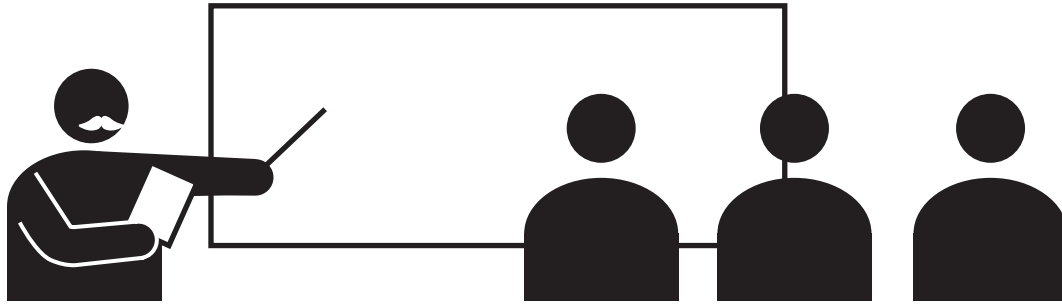
13

管
窓

ボランティアコーディネーター協会

関
わ
る

「大人のいきいきカレッジ」 社会や生活の知恵を受け継ぐ生涯学習機会の提供



事業内容

社会人のスキルアップセミナーや民生委員の勉強会など、大人にも学びの環境が必要です。「大人のいきいきカレッジ」は、職場や地域での活動を担う市民と人生の大先輩であるお年寄りの世代間交流を目的とした生涯学習を楽しむためのイベントです。現在、市内のコミュニティセンターでは長生大学として、高齢者を対象に各種サークル活動や発表の場が設けられています。長生大学で活躍するお年寄りを講師に招き、各種スキルアップセミナーや勉強会を開くことで、日常的には接点の少ない世代間でのコミュニケーションを促すことで、新たな企画や多様性に富んだ活動を展開していきます。

実施することで得られる効果・可能性

生涯学習機会の提供
お年寄りから若者への知識や技術などの伝達

実現する上での課題

お年寄りから学びたい若者の存在
両者を結びつける運営者のノウハウ

①

フ

活

大人

の

いき

いき

カ

レ

ジ

ツ

ナ

グ

フ

タ

ク

シ

テ

ス

ト

ク

ニ

シ

テ

ス

ト

ク

ニ

シ

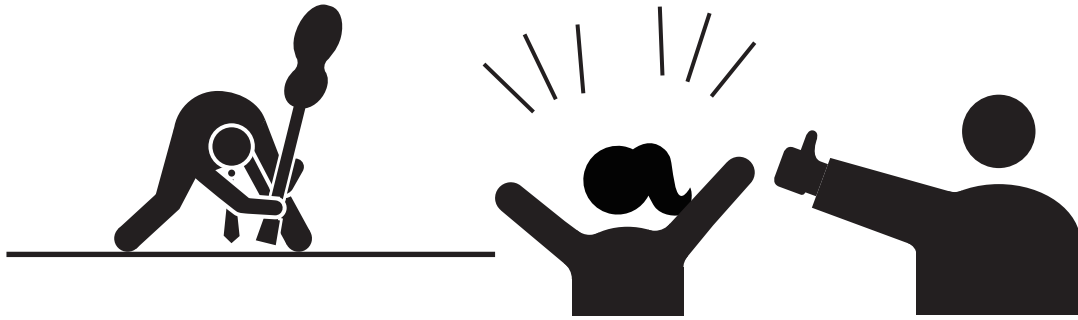
テ

ス

ト

「見習い親父バンドプロジェクト」

楽器演奏初心者地域をサポートし、働き世代のサードプレイスを創出する取組



事業内容

仕事や家事などで忙しい働き世代は、文化芸術活動へ参加する機会は少なく、働き世代が気軽に文化芸術活動へ参加できる工夫や仕組みが重要です。「見習い親父バンドプロジェクト」は、昔やっていたバンド活動を再開するのではなく、楽器演奏を始めるところからスタートするバンドプロジェクトです。講師は地元出身の若手ミュージシャンが行い、年に何度か発表の場を設けます。いつもは仕事で活躍しているお父さんがバンド演奏でカッコいい姿を娘にみせ、それを若い講師が見守るといったように、この取組では、世代間コミュニケーションと働き世代のサードプレイス創出を目標に活動を展開していきます。

② 創

活

見習い親父バンドプロジェクト

実施することで得られる効果・可能性

働き世代のサードプレイス創出
世代間コミュニケーションの促進

実現する上での課題

楽器を始めたいと思っている働き世代の存在
若手ミュージシャンの雇用

「お手軽文化講座」

アマチュア市民が講師を務める多世代交流・文化継承プログラム



事業内容

楽器の練習やダンスのレッスンなど、文化芸術活動には日々の訓練が必須であり、またそれらにより得られた技術は経験者から未経験者へと引き継がれていくものです。「お手軽文化講座」は、楽器やダンスなどのスキルを持った市民が格安でレッスンの機会を提供する講座です。例えば、指導の資格を有していないが長年趣味として続けてきたお年寄りが舞踏を若者へと指導し、楽器の演奏が得意な若者がリタイア後に楽器演奏をはじめのお年寄りに楽器演奏を教えます。この講座では、文化芸術活動を通じて日常的には接点の少ない世代が交流することが見込め、若者はそういった体験を通じて社会人としてのマナーや礼儀を身につけていくことも考えられます。

実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動の気軽な参加機会の提供
世代間交流の促進

実現する上での課題

講座の価格帯・資格等の仕組みづくり
講師を希望する経験者の存在

⑬

定

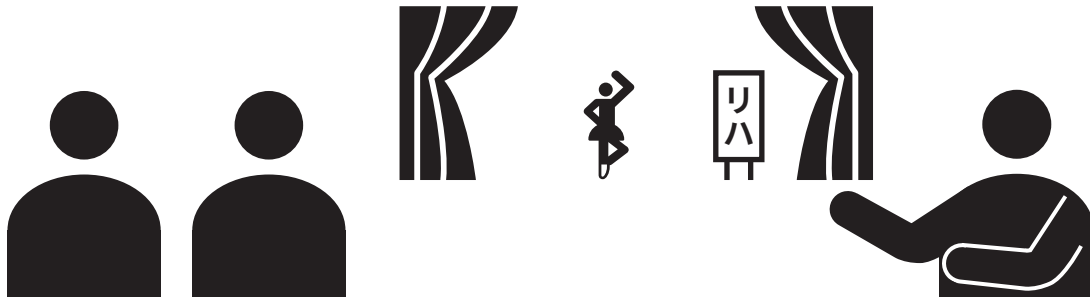
活

お手軽文化講座

つなぐ

「あなたに魅せる公開リハーサル」

練習やリハーサルを公開し施設での活発な活動に見える化する取組



事業内容

施設の活気やにぎわいはその施設の雰囲気づくりを担う貴重な要素です。そのため、新しい施設では、これまで会議室や研修室といった壁で閉じられた諸室で行われていた活動をオープンに見せ、訪れた市民がその魅力を常に感じる取組が重要です。「あなたに魅せる公開リハーサル」では、演劇やダンス、コンサートなどのリハーサルや練習の様子が公開されており、立ち寄った市民は自由に見学し、その感想や意見を伝えることができます。また、施設を訪れた市民が窓口に声をかけることで、各諸室で行われている活動を体験・見学することができます。これらの取組により、市民は常に施設の活気を感じることができ、一方の文化芸術団体にとっては本番前に市民からのフィードバックを受けたり、団体への新たな参加者を増やしたりすることにつながり、双方にとって win-win の関係を築くことができるものとなります。

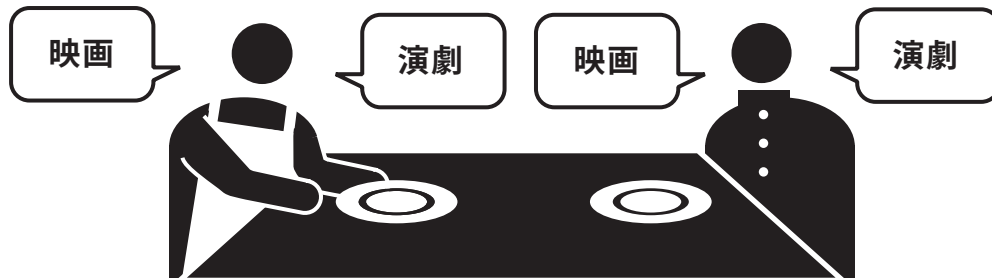
実施することで得られる効果・可能性

施設のにぎわいや活気の創出
 気軽な文化芸術活動への参画機会の提供

実現する上での課題

公開する活動内容や仕組みの検討
 文化芸術団体とのネットワーク構築の必要性

「15の夜～親子の語らい」 文化芸術を通じた親子関係の絆を強めるプログラム



事業内容

「15の夜～親子の語らい」は、思春期の子どもとその親を対象にした芸術鑑賞プログラムです。例えば、その年に15歳になる子どもたちとその親を対象に、母の日、父の日の夜などに無料の演劇鑑賞イベントを設けます。将来のことを悩んでいても言い出せないなど、普段話すことの少ない思春期の親子関係に配慮しながら、少しでも家族で共に過ごす時間を増やし、一緒に観た演劇の話をするといった文化芸術を通じた家族間のコミュニケーションが創出されていくことを狙っています。鑑賞そのものに加えて、家族の記憶に残る一夜を演出します。

実施することで得られる効果・可能性

文化芸術に興味・関心の薄い市民の来訪機会の創出
家族間コミュニケーションの促進

実現する上での課題

諸室利用・チケット購入などの割引システムの構築

05

つ

鑑

15の夜～親子の語らい

つなぐ

「施設運営アカデミー」 施設運営に携わるスタッフの連携・育成



事業内容

文化・芸術活動や地域活動に関わる施設は市内に多数ありますが、それらの活動を連携させ、スタッフの育成を協働で行うことで、相乗効果が期待できます。新たな施設では、施設運営に携わるスタッフを対象とした勉強会、発表会を実施し、各施設における課題の共有や、先進事例の紹介、合同での企画会議など、苫小牧全体における文化・芸術活動、地域活動の活性化を図ります。苫小牧市として一丸となり取り組むべき課題と、各施設の個性を發揮した役割や位置付けについて、スタッフ自身が明確に意識できるほか、施設運営者同士の横のつながりを楽しみながら育んでいく取組です。

実施することで得られる効果・可能性

市内全域での文化芸術・地域施設の連携

実現する上での課題

アカデミーの運営主体となる人材の確保
各施設の協力体制

06

ま

窓

施設運営アカデミー

「なかま to ナカマ」

新しい施設での仲間づくりと活動を支えるクラウドファンディング



事業内容

コンサートを開きたいが資金が足りない、バンドを結成したいがメンバーが不足しているなど、実施したい事業があっても実現しない場面はよくみられます。「なかま to ナカマ」は、市民からやってみたいことを募集し、それらの活動への賛同者を募り実際に共用空間で実施する市民参加型の活動です。例えば、資金難で実現できなかったコンサートを共用空間で実施したり、メンバーが揃い結成がなかったバンドの初ライブを共用空間で行ったりします。クラウドファンディングは、誰かの企画に対して賛同者が資金を提供することで成り立っていますが、ここでは、資金に限らず人材、アイデア、技術なども募集します。ただし、実現がなかった事業は必ず共用空間を使ったイベントを行うという制限を設け、こうすることで新しい施設が仲間づくりや活動の拠点となり、共用空間を常に一定のイベントが行われる空間とすることができます。

実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動数の増加
共用空間のにぎわいや活気の創出

実現する上での課題

クラウドファンディングの仕組みづくり

07

定

活

なかま to ナカマ

つなぐ

「文化芸術コンソーシアム」

市内文化芸術活動の分野を超えた交流や連携を目的とした組織



事業内容

「文化芸術コンソーシアム」は、新しい施設を中心に、市内の文化芸術活動団体の分野を超えた交流や連携を目的とした組織です。文化芸術活動の強みを生かした仲間づくり・交流を目的としたイベント・ワークショップの企画や、異なる分野が日常的に協働し、接点を持つことのできるようなプラットフォーム・場所づくりなどの活動を積極的に実践していきます。組織の運営に関しては、凝り固まることのない柔軟な組織づくりを目指し、市民の意見を聞く機会を頻繁に設けるなど、組織の体制や役割を臨機応変に変化させることができます。

実施することで得られる効果・可能性

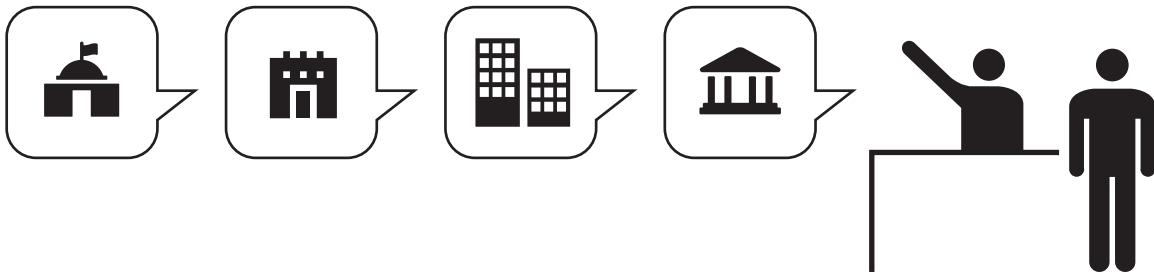
施設の来訪機会・リピーター創出
文化芸術に対する興味・関心の喚起

実現する上での課題

既存の文化団体協議会といった団体との連携の必要性
持続的な活動を展開する組織体制や仕組みの検討

「施設コンシェルジュ」

市内施設のネットワークを活かした施設利用の相談サービス



事業内容

既存の利用予約のシステムは予約する施設に直接来訪し申請を行うものであり、先に予約が埋まってしまった場合は他の手段に頼ることができず八方塞がりになってしまう状態です。市内の公共施設には会議室や練習室などを備えた施設はいくつか存在しており、新しい施設の建設にあたって、積極的にそれらのネットワークを構築していくことが必要です。一か八かではなく、予約が重複した際にも代替案が検討できたり、その他のサービスを提供したりといった予約専門のスタッフを配備することで、子どもや高齢者を含めた全ての市民が等しく市内の公共施設を有効に利用できることを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

市内公共施設の有効活用
市民の公共サービスへの満足度向上

実現する上での課題

優先利用システムの構築・ルールづくり
イベント実施者の存在

09

窓

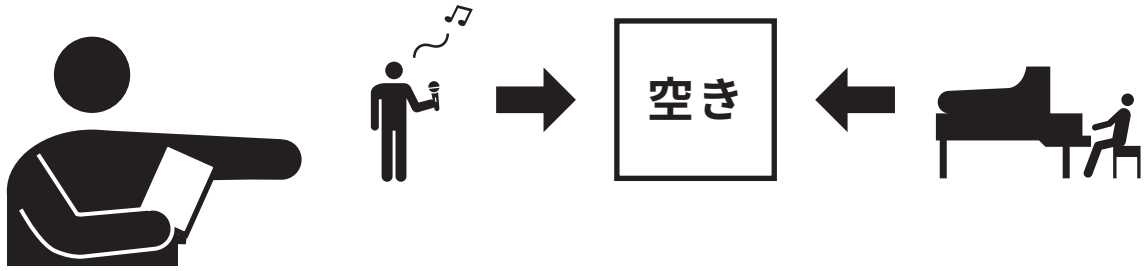
窓

施設コンシェルジュ

つなぐ

「空き部屋活用不動産」

施設の空き室を管理し、新たな利用を促す運用サービス



事業内容

どんなに施設の運営やマネジメントを工夫したとしても、予約が入らない空きのある諸室は出てくるものです。「空き部屋活用不動産」は、生じてしまった空きの諸室を活用したイベントを考える組織です。これまでの利用履歴や文化芸術団体との日常的なやりとりなどを参考に、空いた諸室をうまく活用してくれそうな団体に企画を持ちかけることでイベントを実施していきます。例えば、音楽練習室が空いた際に、カラオケサークルとピアノサークルに相談し即興のリサイタルを企画するといった具合です。この活動は、単なる空き諸室の解消にとどまらないサークル間の連携や相乗効果を促すことも目的としています。

実施することで得られる効果・可能性

稼働率の向上
文化芸術団体間での連携・相乗効果

実現する上での課題

イベントを企画するディレクターの人材確保
文化芸術団体のネットワーク構築の必要性